

# 経営比較分析表（令和6年度決算）

兵庫県公立八鹿病院組合 公立村岡病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	50床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	6	-	-	臨
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
-	2,995	第1種該当	-	10:1

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
42	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	42
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般+療養）
29	-	29

グラフ凡例
■ 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
[ ] 令和6年度全国平均

## 経営強化に係る主な取組（直近の実施時期）

機能分化・連携強化 （従来の形態・ネットワークを基に）	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
- 年度	- 年度	- 年度

## I 地域において担っている役割

当院は、地域包括ケア病床を整備し、急性期を過ぎた回復期患者を受け入れる病院としての役割を担っている。外来診療においては、各医師が専門性を活かしつつ、総合診療科制を実施している。  
また、在宅療養支援病院として、訪問診療や訪問看護等の在宅医療を中心とした慢性期医療にも積極的に取り組んでいる。他の医療機関や介護施設等と連携しながら、地域において高齢者が安心して生活できる医療の提供に努めている。  
加えて、総合診療専門研修プログラムの連携施設として、また臨床研修における地域医療研修の研修先として、研修医および専攻医を受け入れており、地域医療に貢献できる医師の育成という役割も担っている。

## II 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

当院は第1種不採算地区に所在する病院であり、病床利用率は50%を割り込む状況が続いている。過疎化の進行により、既に後高齢者数も減少局面に入っており、医療需要の縮小が見込まれることから、経営の健全化・効率化に向け、病院規模等のあり方について検討が必要な段階にある。

入院単価については、地域包括ケア病床の活用により全国平均以上の水準を維持してきたが、全国平均の伸びに比べると当院はほぼ横ばいであり、R6年度には全国平均を下回る結果となった。これは、地域包括ケア病床の特性上、診療単価の大幅な引上げが困難であることが一因である。一方、外来単価は、院内処方等の要因により、全国平均を上回っている。

費用面では、回復期機能を中心とする病院であることから給与費比率が高いものの、全国平均は下回っている。一方、材料費比率は全国平均を上回っている。

### 2. 老朽化の状況について

当院の医療圏（香美町村岡区、小代区）は、過疎化が進行している地域であり、既に高齢者人口も減少局面に入っていることから、今後の医療需要は縮小すると見込んでいる。

病院建物については老朽化が進んでいるものの、地域の医療需要の動向を踏まえ、施設・設備への積極的な投資は行っておらず、その結果、有形固定資産の減価償却率は高い水準で推移している。最適化に向けては、施設の長寿命化と最低限の改修を基本方針としている。

なお、1床当たりの有形固定資産額は同規模病院の平均を下回っているが、これは当院が回復期・慢性期医療を中心に提供していることから、医療機器等への投資額が相対的に少ないことによるものである。

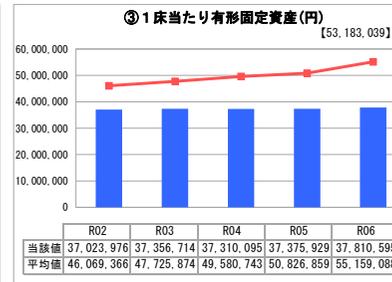
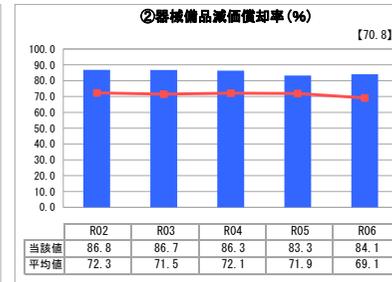
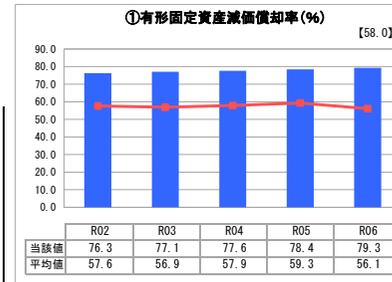
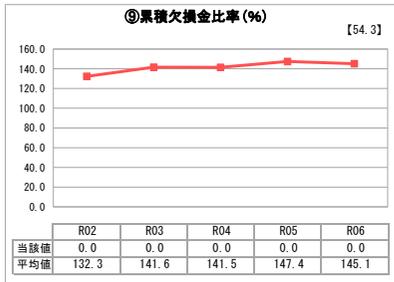
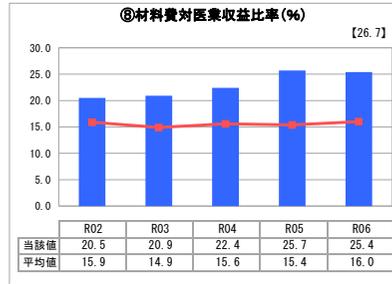
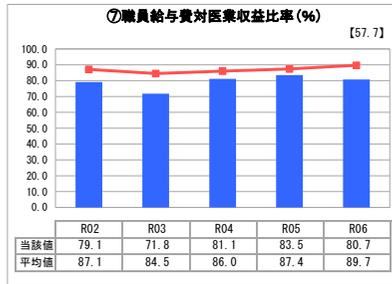
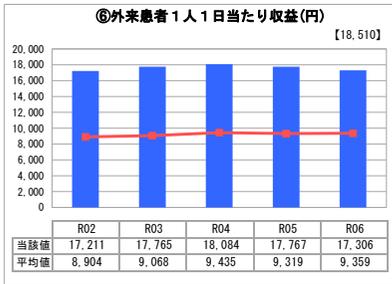
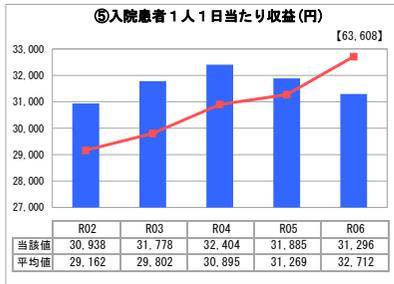
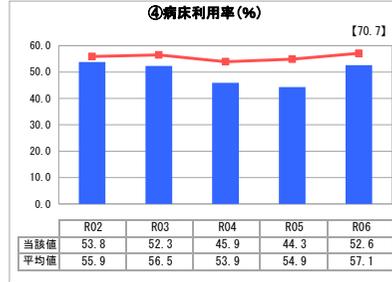
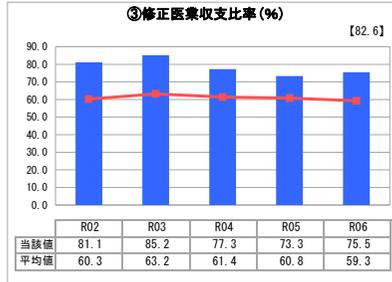
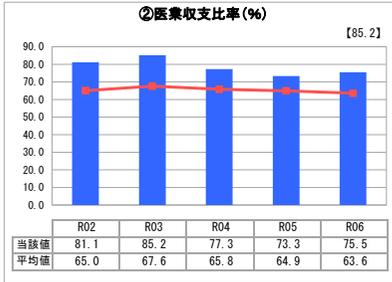
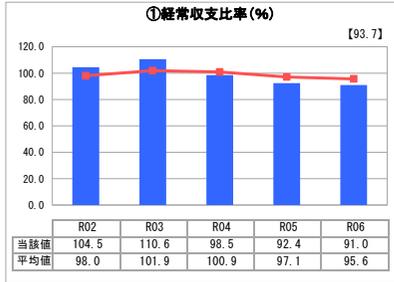
### 全体総括

当院の医療圏では、総人口のみならず高齢者人口についても減少局面を迎えており、今後の医療需要は縮小していくものと見込んでいる。当院は但馬地域で最初に地域包括ケア病床を導入し、入院患者数の増加や収支改善につなげてきた。しかし、近隣医療機関においても同機能病床の整備が進んだことに加え、地域全体の医療需要の縮小を踏まえ、今後、大幅な入院患者数の増加を見込むことは困難な状況にある。

このため、引き続き在宅療養支援病院として在宅医療に積極的に取り組むとともに、在宅療養患者の状態悪化時には速やかに入院医療を提供できる体制を確保するなど、現行の病院機能を維持することを基本的な方針としている。

当院は不採算地区病院であることから、医療収支における黒字化は困難であるが、他会計からの適切な繰入れを前提に、経営収支の黒字化を図ることとしている。経営改善に向けては、地域の医療需要に応じた適正な病院規模の構築を目指し、業務の効率化による費用削減や、施設・設備の最適化策等に努めている。

## 1. 経営の健全性・効率性



※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。